



北京オリンピック マラソンスイミング 視察・分析報告書

財団法人 日本水泳連盟
オープンウォータースイミング委員長
鷺見 全弘

- . 視察概要
- . 出場者 / 出場国分析
- . 競技報告
- . 競技結果分析

オリンピック新種目となったマラソンスイミング(*)を視察した。国際水泳連盟(FINA)が統括する競技種目としては、ロサンゼルスオリンピック(1984年)のシンクロナイズドスイミング以来、24年ぶりとなる水泳競技の新たなオリンピック種目である。ここに競技内容、選手分析、今後の展望を報告する。

*北京オリンピックでは「オープンウォータースイミング」ではなく「マラソンスイミング」の名称が用いられていたため、本稿では表現を「マラソンスイミング」に統一した。

. 視察概要

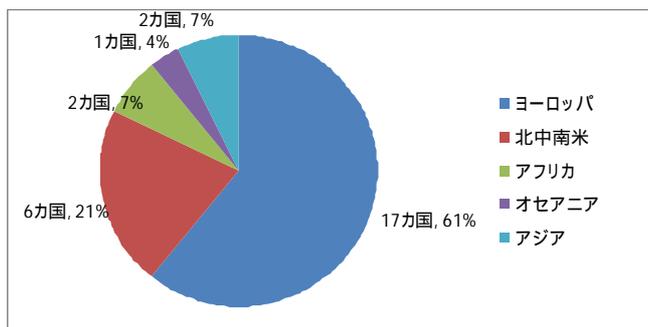
- 目的 1) 競技および競技運営の視察・情報収集
 2) 各国の選手および競技力向上に関する情報の収集
- 日時 2008年8月20日(水)・21日(木) 午前9時～
- 会場 順義オリンピック水上公園
- 視察員 鷲見全弘(日本水泳連盟OWS委員長)、鈴木大地(日本水泳連盟競泳委員・OWS委員)

. 出場者 / 出場国分析

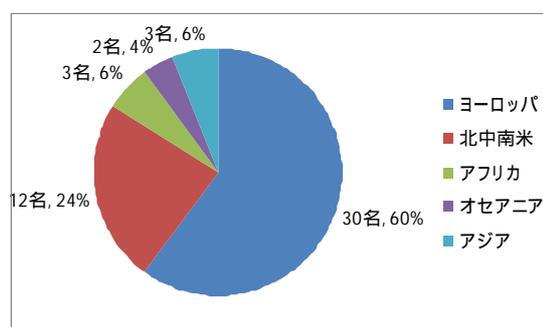
1. 出場人数 / 国数 (表 1)

男子	女子	合計
25名 / 24カ国	25名 / 23カ国	50名 / 延べ47カ国 (実数28カ国)

2. 大陸別分析



大陸別出場国占率(図 1)



大陸別出場者占率(図 2)

五輪予選(*)の結果、出場国数・出場者数とも欧州勢が6割を超え、欧州諸国の実力の高さを示した。次いで北中米が続き、オセアニア・アジア・アフリカは後塵を拝している。

3. 内訳 (表 2)

大陸	国	男子	女子	合計	
ヨーロッパ (30名 / 17カ国)	オランダ	1	1	2	
	イギリス	1	2	3	
	ドイツ	1	1	2	
	イタリア	1	1	2	
	ロシア	2	1	3	
	ブルガリア	1		1	
	ベルギー	1		1	
	ウクライナ	1	1	2	
	スペイン	1	1	2	
	フランス	1	1	2	
	ギリシャ	1	1	2	
	チェコ	1	1	2	
	ポルトガル	1	1	2	
	ハンガリー	1		1	
	スイス			1	1
	スロベニア			1	1
	スウェーデン			1	1
北中南米 (12名 / 6カ国)	アメリカ	1	1	2	
	メキシコ	1	1	2	
	ベネズエラ	1	1	2	
	ブラジル	1	2	3	
	アルゼンチン	1	1	2	
	チリ		1	1	
アフリカ (3名 / 2カ国)	エジプト	1		1	
	南アフリカ	1	1	2	
オセアニア (2名 / 1カ国)	オーストラリア	1	1	2	
アジア (3名 / 2カ国)	シリア	1		1	
	中国	1	1	2	

* オリンピック出場条件・・・下記条件を満たした者のみが出場できる(男女各 25 名)。

第 5 回 FINA 世界 OWS 選手権セピリア大会 2008 (2008 年 5 月 3 日、4 日)

a) 10 km 種目の上位 10 名が出場権を獲得(各国上限 2 名)

b) 大陸代表・・・10 km 種目を完泳し、各 5 大陸からまだ出場権を獲得していない選手が出場権を獲得

c) 開催国・・・a)b)の条件でまだ出場権を獲得していない場合、男女各 1 名の選手が出場権を獲得

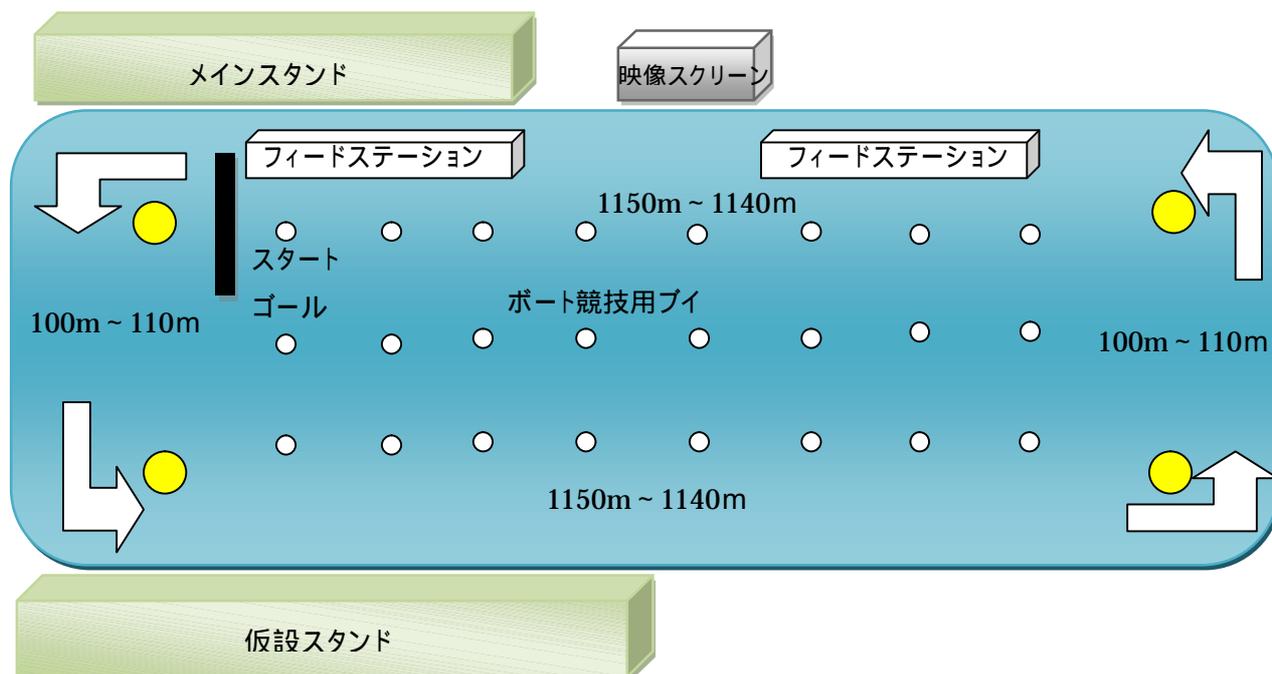
北京オリンピック・マラソンスイムプレ大会 (2008 年 5 月 31 日、6 月 1 日)

出場権を獲得した選手がいない NOC は、各種目につき 2 名をエントリーすることができる。残りの出場枠は、すべてこの大会の上位者より各国 1 名で配分する。

・競技報告

1. コースレイアウト (図 3)

1周 2.5km(長辺 1150~1140m×短辺 100~110m * 推定)の4角形コースを4周回



2. 試合経過と戦評

【女子 10km】 8月20日(水)午前9時、快晴

25名の選手が一斉にスタート。直後からペイン選手とパッテン選手(ともにイギリス)の二人を先頭に集団が形成された。半周で1名脱落。2周目に入って半周した地点で更に1名脱落。その後駆け引きを繰り返しながら、集団のまま4周目へ突入。4周目に入ると一気に身体接触の頻度が増し、1時間36分過ぎ、集団が崩れ始めた。ペースがどんどん上がり、ラスト300mを切ったところで常に2番手につけていたイルチェンコ選手(ロシア)が一斉にスパートして右からトップの二人を抜きにかかった。3名による激しいデッドヒートのままゴールタッチボードへ。最後、僅かに抜け出したイルチェンコ選手が優勝。猛烈な水しぶきのなか、まさにコンマの戦いとなった。イルチェンコ選手はここ4年間無敗を続けるOWSの若き女王。巧みなドラフティング技術でデュアルスイマーのイギリス2選手(北京五輪競泳種目にも出場)をかわして優勝を飾った。

【男子 10km】 8月21日(木)午前9時、豪雨

25名の選手が一斉にスタート。直後からデービス選手(イギリス)を先頭に、ジアニモティス選手(ギリシャ)、ルルツ選手(ドイツ)が続く縦一列が出来上がり、その後ろに4位以降の集団が形成された。ほどなく集団から1名が脱落。2周目に入るとさらに1名脱落。トップ3名は一進一退を繰り返しながら2周目、3周目と進んだが、4周目に入ると一気にペースアップ。ここでジアニモティス選手が脱落。デービス選手とルルツ選手が激しく競り合って最終500mへ。ところが二人は左にコースを取り過ぎ、やや蛇行する羽目に陥った。この間隙をぬって、ファンデルワイデン選手(オランダ)が正確なコースどりで一気に並び抜き去って逆転の優勝を飾った。ファンデルワイデン選手はOWS全種目(5km、10km、25km)で好成績を上げているオールラウンドOWSスイマー。抜群のレース勘で見事に初代五輪チャンピオンとなった。一方、アテネ五輪1500m自由形の銅メダリスト・デービス選手は、これがOWS3戦目のキャリア。ラストのスピード勝負にかけたが、コース取りに失敗した。経験の差が明暗を分けた。

3. メダリスト:

【男子 10 km】 (表 3)

メダル	名前	国	時間 (トップとのタイム差)
金	M. ファンデルワイデン	オランダ	1:51:51:6
銀	D. デービス	イギリス	1:51:53:1 (1.5 秒)
銅	T. ルルツ	ドイツ	1:51:53:6 (2.0 秒)

【女子 10 km】 (表 4)

メダル	名前	国	時間 (トップとのタイム差)
金	L. イルチェンコ	ロシア	1:59:27:7
銀	K. ペイン	イギリス	1:59:29:2 (1.5 秒)
銅	C. パッテン	イギリス	1:59:31:0 (2.3 秒)

欧州勢が男女のメダルを独占した。8 位入賞者も、男子は 7 名、女子は 6 名を欧州勢が占めた。詳細はリザルトを参照のこと。

4. レースペースの推移

トップ選手の各地点における通過時間および所要時間を下表にまとめる。各地点間の距離および通過時間は驚見の目視によるもので、最終タイムのみトップ選手の正式計時である。目視確認できなかった個所は空欄とする。

【女子 10 km】 (表 5)

	1 ブイ 2 ブイ [100m ~ 110m]	2 ブイ 3 ブイ [1150m ~ 1140m]	3 ブイ 4 ブイ [100m ~ 110m]	4 ブイ 1 ブイ [1150m ~ 1140m]
1 周目	---:---	15:00 (---:---)	16:30 (1:30)	29:43 (13:13)
2 周目	31:12 (1:29)	---:---	46:00 (---:---)	59:56 (13:56)
3 周目	1:01:39 (1:43)	1:15:14 (13:35)	1:16:44 (1:30)	1:30:17 (13:33)
4 周目	1:31:46 (1:29)	1:45:13 (13:27)	1:46:41 (1:28)	1:59:27 (12:46)

(単位は時間・分・秒;カッコ内はブイ間の所要時間)

【男子 10 km】 (表 6)

	1 ブイ 2 ブイ [100m ~ 110m]	2 ブイ 3 ブイ [1150m ~ 1140m]	3 ブイ 4 ブイ [100m ~ 110m]	4 ブイ 1 ブイ [1150m ~ 1140m]
1 周目	---:---	13:19 (---:---)	15:05 (1:46)	27:46 (12:41)
2 周目	29:06 (1:20)	41:42 (12:36)	43:04 (1:22)	---:---
3 周目	56:27 (---:---)	1:10:12 (13:45)	1:11:24 (1:12)	1:24:41 (13:17)
4 周目	1:25:49 (1:08)	1:38:24 (12:35)	1:39:30 (1:06)	1:51:51 (12:21)

(単位は時間・分・秒;カッコ内はブイ間の所要時間)

男女とも明らかに 4 周目にペースが上がっている。このペースアップの結果、それまで互いにけん制しながら形成されていた集団が一気に崩れることとなった。最終周回にはペースが上がることは、近年の OWS でよくみられる傾向である。

・競技結果分析

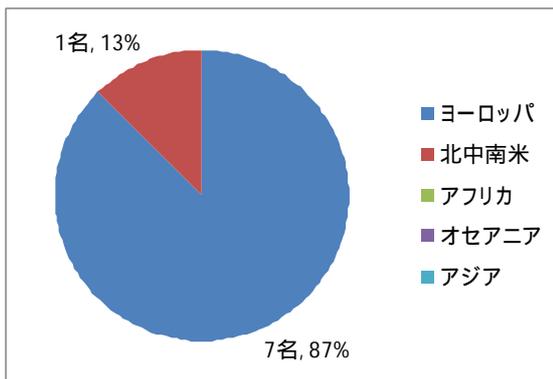
現在のOWSで上位入賞を果たすためには、何が必要なのか。本大会のリザルトより全選手の競技歴（競泳の実績、OWS世界選手権の戦績、FINAマラソンスイミングへの出場の有無）、年齢、体格などの特性を分析することで、「絶対的スピード」、「OWSの経験値」などトップレベルに求められる要素を考察する。

【男子 10 km】（表 7）

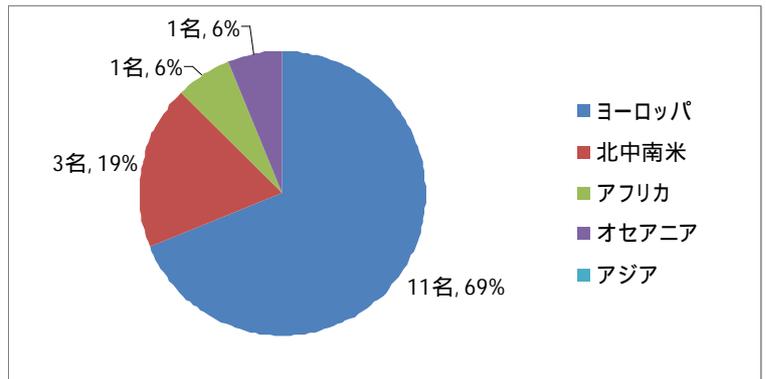
順位 (1位との差)	選手名 (国)	年齢	1500m自由形タイム (記録年)	世界OWSセビリア(08年) 世界水泳メルボルン(07年)	FINAマラソンスイミング ワールドカップ出場数	体格
1位	M.ファンデルワイデン (オランダ)	27		セビリア 10km4位、同25km1位、メルボルン10km7位	出場	205cm 92kg
2位 (1.5秒)	D.デービス (イギリス)	23	14:45:95 (04年) 14:46:11 (08年)	セビリア 10km2位	アテネ五輪競泳銅メダル 北京五輪競泳入賞	188cm 81kg
3位 (2.0秒)	T.ルルツ (ドイツ)	29	15:14:74 (05年) 15:00:90 (06年)	セビリア 10km3位 メルボルン 10km2位	出場 アテネ五輪競泳出場	183cm 76kg
4位 (15.9秒)	V.クレリ (イタリア)	27	15:15:61 (05年) 15:45:75 (06年)	セビリア 10km8位 メルボルン 10km15位	出場	177cm 76kg
5位 (17.3秒)	E.ドラチェフ (ロシア)	25	15:38:87 (05年) 15:29:31 (06年)	セビリア 10km5位 メルボルン 10km3位	出場	180cm 74kg
6位 (17.5秒)	P.ストイチェフ (ブルガリア)	31	15:28:84 (08年)	セビリア 10km18位、同25km4位、メルボルン5km12位	出場 北京五輪競泳出場	193cm 90kg
7位 (19.1秒)	B.ライクマン (ベルギー)	24	15:40:85 (06年) 15:31:64 (08年)	セビリア 10km10位 メルボルン 10km6位		196cm 75kg
8位 (21.4秒)	M.ワーキントン (アメリカ)	28	15:50:97 (06年)	セビリア 10km7位、同25km2位、メルボルン10km7位	出場	188cm 84kg
9位 (21.5秒)	C.ホー (南アフリカ)	18		セビリア 10km35位 メルボルン 5km21位		170cm 69kg
10位 (22.0秒)	L.マルドナド (ベネズエラ)	25	16:47:50 (07年)	セビリア 10km24位 メルボルン 10km22位	出場	174cm 65kg
11位 (22.1秒)	K.ハースト (オーストラリア)	27	15:31:95 (06年)	セビリア 10km5位 メルボルン 10km22位	出場	183cm 87kg
12位 (23.1秒)	I.チェルビンスキー (ウクライナ)	26	15:12:58 (04年) 15:10:06 (05年)	セビリア 10km31位 メルボルン 10km19位	出場 アテネ五輪競泳出場	180cm 73kg
13位 (24.9秒)	J.ヘルバス (スペイン)	27	15:40:63 (06年)	セビリア 5km6位 メルボルン 10km26位	出場	167cm 60kg
14位 (25.0秒)	A.カルモ (ブラジル)	19		セビリア 10km36位 メルボルン 10km17位	出場	
15位 (25.1秒)	G.ロンディ (フランス)	26	15:43:99 (06年)	セビリア 10km11位 メルボルン 25km14位	出場	182cm 72kg
16位 (28.8秒)	S.ジアニモティス (ギリシャ)	28	14:53:32 (08年)	セビリア 10km9位 メルボルン 5km3位	出場 北京五輪競泳出場	185cm 72kg

17位 (50.2秒)	R. ヴィテク (チェコ)	32		セビリア 10km22位 メルボルン 25km12位	出場	182cm 78kg
18位 (1分56.3秒)	L. エスコバル (メキシコ)	23		セビリア 10km14位 メルボルン 10km32位	出場	186cm 82kg
19位 (2分46.1秒)	S. モハマト (シリア)	22		セビリア 10km23位 メルボルン 25km14位	出場	170cm 55kg
20位 (3分25.4秒)	M. モニール (エジプト)	24		セビリア 10km19位 メルボルン 25km3位	出場	
21位 (3分57.0秒)	D. ブラウム (アルゼンチン)	17		セビリア 10km16位 メルボルン 25km13位	出場	176cm 70kg
22位 (11分48.0秒)	A. ラブレネフ (ポルトガル)	25		北京フレ 10km14位	出場	192cm 94kg
23位 (17分21.8秒)	T. シン (中国)	21	16:10:43(04年) 8:15:69(06年) 800m 自由形		アテネ五輪競泳出場	
DNF	C. ゲルサク (ハンガリー)	20		セビリア 10km29位 メルボルン 10km10位		171cm 65kg
DSQ	V. ディアチン (ロシア)	25		セビリア 10km1位 メルボルン 10km1位	出場	188cm 79kg

- : 第5回FINA世界OWS選手権セビリア大会 2008において10位以内に入り選出
- : 第5回FINA世界OWS選手権セビリア大会 2008において大陸代表として選出
- : 開催国代表として選出
- : 北京オリンピック・マラソンスイミングプレ大会において選出



上位 8 選手 (図 4)



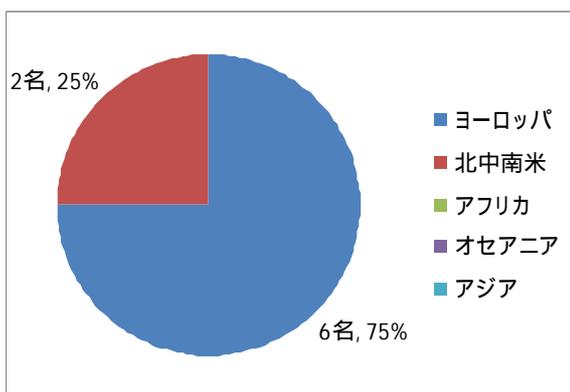
上位 16 選手 (図 5)

【女子 10 km】 (表 8)

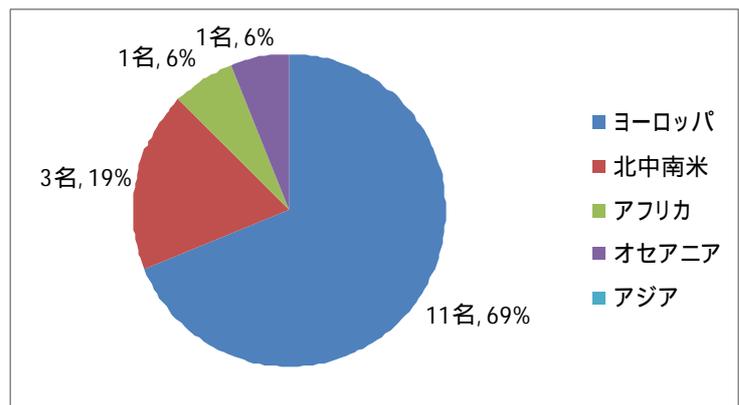
順位 (1位との差)	選手名 (国)	年齢	800m自由形タイム (記録年)	世界OWSセビリア(08年) 世界水泳メルボルン(07年)	FINA マラソンスイミング ワールドカップ ¹⁾	体格
1位	L. イルチェンコ (ロシア)	19		セビリア 10km1位 メルボルン 10km1位	出場	171cm 58kg
2位 (1.5秒)	K. ペイン (イギリス)	20	4:38:65 (08年) 2:12:78 (08年)	セビリア 10km8位 メルボルン 10km11位	北京五輪競泳出場 (400IM、200IM)	178cm 66kg
3位 (3.3秒)	C. パッテン (イギリス)	21	8:25:91 (08年)	セビリア 10km2位 メルボルン 10km2位	北京五輪競泳入賞 (800FR)	178cm 81kg
4位 (4.2秒)	A. モウラ (ドイツ)	27		セビリア 10km7位 メルボルン 10km4位	出場	171cm 59kg
5位 (9.1秒)	A. クーナ (ブラジル)	16		セビリア 10km10位 メルボルン 10km26位	出場	164cm 65kg
6位 (9.2秒)	S. オベルソン (スイス)	22	8:45:31 (08年)	セビリア 10kmDNF 5km13位		183cm 67kg
7位 (9.7秒)	P. オキモト (ブラジル)	25	17:01:55 (06年) 1500m 自由形	セビリア 10km6位 メルボルン 10km8位	出場	165cm 61kg
8位 (12.0秒)	J. ペカノワ (チェコ)	27	8:47:38 (04年)	セビリア 10km5位、 メルボルン 25km6位	出場 アテネ五輪競泳出場	170cm 62kg
9位 (12.3秒)	A. ピントペレス (ベネズエラ)	17	8:54:98 (07年) 8:30:30 (08年)	セビリア 10km17位 メルボルン 10km21位	出場 北京五輪競泳出場	171cm 57kg
10位 (13.0秒)	M. グリマルディ (イタリア)	19		セビリア 10km26位 メルボルン 5km16位	出場	172cm 65kg
11位 (14.6秒)	M. リンペルタ (ギリシャ)	29	8:42:65 (04年)	セビリア 10km15位	出場 アテネ五輪競泳出場	167cm 53kg
12位 (16.0秒)	T. ズパン (スロベニア)	17	16:58:53 (08年) 1500m 自由形	セビリア 10km13位 同 5km6位	出場	168cm 60kg
13位 (19.2秒)	Y. リクエナ (スペイン)	25		セビリア 10km3位 メルボルン 10km16位	出場	167cm 50kg
14位 (35.1秒)	E. ファンディジク (オランダ)	35		セビリア 10km11位、同 25k m2位、同 5km18位	出場	176cm 66kg
15位 (1分05.9秒)	M. ゴーマン (オーストラリア)	22	8:37:90 (06年) 8:32:34 (08年)	セビリア 10km25位	北京五輪競泳出場	180cm 65kg
16位 (1分22.2秒)	N. デュトイト (南アフリカ)	24	4:28:09 (04年) 400m 自由形	セビリア 10km4位 同 5km16位	アテネパラリンピック競泳 出場	175cm 72kg

17位 (1分31.3秒)	D. イナチオ (ポルトガル)	19		セビリア 10km45位	出場	169cm 51kg
18位 (1分37.3秒)	E. ベルグランド (スウェーデン)	24		セビリア 10km28位 メルボルン 10km10位	出場	164cm
19位 (1分40.2秒)	Y. ファン (中国)	19		セビリア 10km12位 メルボルン 5km11位		173cm 69kg
20位 (1分40.2秒)	I. マルチネス (メキシコ)	26		セビリア 10km22位	出場	163cm 60kg
21位 (2分36.4秒)	A. ミューラー (フランス)	18		セビリア 10km9位	出場	169cm 57kg
22位 (2分45.9秒)	C. サットン (アメリカ)	16		セビリア 5km3位 メルボルン 10km28位	出場	173cm 64kg
23位 (11分13.9秒)	N. サモロディナ (ウクライナ)	25	2:17:15(04年) 200m バタフライ	セビリア 10km30位 メルボルン 10km22位	出場 アテネ五輪競泳出場	172cm 60kg
24位 (12分08.2秒)	A. ボガリン (アルゼンチン)	26		セビリア 10km41位		180cm 65kg
DNF	K. コブリッチ (リ)	23	8:34:25 (08年) 16:27:13(07年) 1500m 自由形	セビリア 10km33位、	出場 アテネ五輪競泳出場 北京五輪競泳出場	171cm 61kg

- : 第5回FINA世界OWS選手権セビリア大会 2008において10位以内に入り選出
- : 第5回FINA世界OWS選手権セビリア大会 2008において大陸代表として選出
- : 開催国代表として選出
- : 北京オリンピック・マラソンスイミングプレ大会において選出



上位8選手(図6)



上位16選手(図7)

表 7、8 より、下記の結果を得た。

1. OWS 競技の出場経歴

結論 70%以上の選手が継続的に FINA 主催の OWS 競技会に参戦しており、上位選手ほどその傾向が強い。

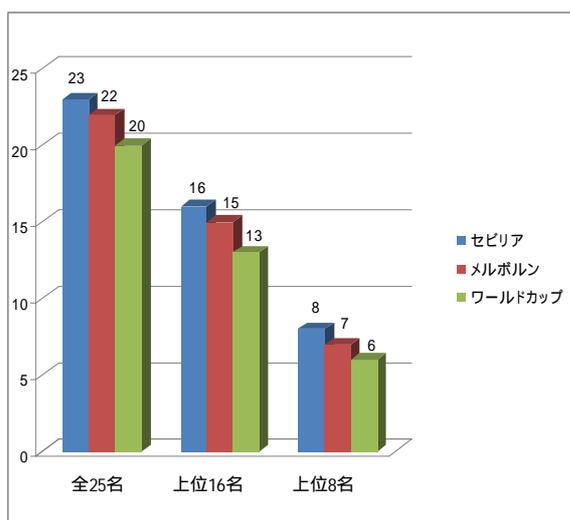
根拠 1) 「世界 OWS 選手権セビリア大会」(2008 年)には、96%の選手が出場 (男子 92%、女子 100%)。

2) 「世界水泳選手権メルボルン大会」(2007 年)には、72%の選手が出場 (男子 88%、女子 56%)。

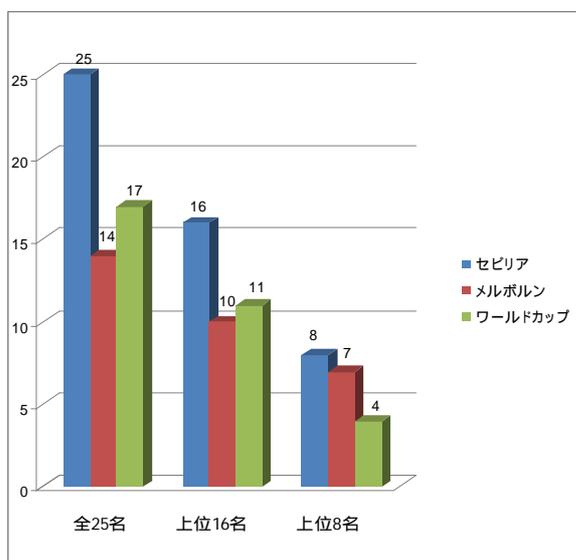
3) 「FINA マラソンスイミング・ワールドカップ」には、72%の選手が出場 (男子 76%、女子 68%)。

FINA 主催の OWS 競技会の出場経歴(表 9)

大会	男子	女子
世界 OWS 選手権セビリア 2008 出場者	8 名 / 上位 8 名 16 名 / 上位 16 名 23 名 / 全 25 名	8 名 / 上位 8 名 16 名 / 上位 16 名 25 名 / 全 25 名
世界水泳選手権メルボルン 2007 出場者	7 名 / 上位 8 名 15 名 / 上位 16 名 22 名 / 全 25 名	7 名 / 上位 8 名 10 名 / 上位 16 名 14 名 / 全 25 名
FINA マラソンスイミング・ワールドカップ (2008 年は全 8 戦) 出場者	6 名 / 上位 8 名 13 名 / 上位 16 名 20 名 / 全 25 名	4 名 / 上位 8 名 11 名 / 上位 16 名 17 名 / 25 名



男子選手の出場経歴(図 8)



女子選手の出場経歴(図 9)

2. 競泳の持ちタイム

結論 「男子 1500mで 15 分 10 秒台(女子 800mで 8 分 30 秒台)以速のスピード」が、「25kmでも実績を残せるタフネス」が、10kmでの上位入賞には必要である。

- 根拠 1)男子 1500mで 15 分 10 秒台以速のタイムを持つ全 5 選手は、OWSの経験差に関わらず全員 16 位以内に入り、うち 3 名はメダル争いをしている。
- 2)女子 800mで 8 分 30 秒台以速のタイムを持つ全 6 選手のうち 5 選手は、OWSの経験差に関わらず 16 位以内に入っている。
- 3)男子 1500mが 15 分 40 秒台(女子 800mが 8 分 40 秒台)の選手でも、25km種目で実績のある選手は 8 位入賞している。

3. 上位選手の競泳経歴

結論 スピードに勝るデュアルスイマーも、OWSの経験が乏しいと結果を出しにくい。

- 根拠 1)2008 年度公式競泳記録をもつデュアルスイマー(競泳とOWSかけもち選手)は、男子が 4 名(うち 3 名が北京五輪競泳出場)、女子が 6 名(うち 4 名が北京五輪競泳出場)である。
- 2)そのうち継続的にOWSに出場せずに上位 16 位に入った選手は、男子 1 名(2 位)、女子 2 名(6 位、15 位)にとどまる。

上位 16 名に占めるデュアルスイマーの数と競技成績(表 10)

競泳経歴	男子	女子
08 年公式競泳記録有	4 名 (2 位、6 位、7 位、16 位)	6 名 (2 位、3 位、6 位、9 位、12 位、15 位)
北京五輪競泳出場者	3 名 (2 位、6 位、16 位)	4 名 (2 位、3 位、9 位、15 位)

4. オリンピック出場の選出分類

結論 「世界OWS選手権セビア大会」(2008 年)で 10 位以内となり五輪出場を決めた選手が現在の世界のトップOWSスイマーたちであり、継続的に好成績を収めている。表 7、8 の色分け(赤)を参照。

- 根拠 1)同大会で 10 位以内となり五輪出場を決めた選手が、オリンピックの結果でも上位を占めている。
- 2)同大会で 8 位入賞した選手のうち 6 名がオリンピックでも 8 位入賞を果たしている。

5. 平均年齢・身長・体重

【男子 10 km】(表 11)

	平均年齢	平均身長	平均体重
8 位以内	26.8 歳	188.8cm	81.0kg
16 位以内	25.6 歳	183.4cm	76.4kg
全出場者	24.8 歳	182.5cm	75.9kg

【女子 10 km】(表 12)

	平均年齢	平均身長	平均体重
8 位以内	22.1 歳	172.5cm	64.9kg
16 位以内	22.8 歳	172.3cm	62.9kg
全出場者	22.4 歳	171.6cm	62.3kg

男女とも上位選手ほど大型傾向がみられるが、男子のほうが顕著である。身体接触があるため、屈強で大柄な選手の優位性は否めない。

・考察 ～上位OWS選手に求められる特性～

競技結果および分析から、OWS選手に求められる特性 4 要素を以下に列挙する。

1) 経験

豊富なレース経験 (2007 年以前からFINA主催の競技会に出場)

2) スピード

男子は 1500m で 15 分 10 秒台以速、女子は 800m で 8 分 30 秒台以速のスピード

3) タフネス

25km 種目で上位入賞できるタフネス

4) 体格

男子は 180cm・75kg 超、女子は 170cm・60kg 超の体格

【男子上位 8 選手の特性】(表 13)

順位	名前	1) 経験	2) スピード	3) タフネス	4) 体格
1 位	M. ファンデルワイテン (オランダ)				
2 位	D. デービス (イギリス)				
3 位	T. ルルツ (ドイツ)				
4 位	V. クレリ (イタリア)				
5 位	E. ドラチェフ (ロシア)				
6 位	P. ストイチェフ (ブルガリア)				
7 位	B. ライクマン (ベルギー)				
8 位	M. ワーキントン (アメリカ)				
9 位	C. ホー (南アフリカ)				
10 位	L. マルドナド (ベネズエラ)				
11 位	K. ハースト (オーストラリア)				
12 位	I. チェルビンスキー (ウクライナ)				
13 位	J. ヘルバス (スペイン)				
14 位	A. カルモ (ブラジル)				
15 位	G. ロンディ (フランス)				
16 位	S. ジアニモティス (ギリシャ)				
17 位	R. ヴィテク (チェコ)				
18 位	L. エスコバル (メキシコ)				
19 位	S. モハマド (シリア)				
20 位	M. モニール (エジプト)				
21 位	D. ブラウム (アルゼンチン)				
22 位	A. ラブレネフ (ポルトガル)				
23 位	T. シン (中国)				
DNF	C. ゲルサック (ハンガリー)				
DSQ	V. ディアチン (ロシア)				

【女子上位 8 選手の特徴】(表 14)

順位	名前	1) 経験	2) スピード	3) タフネス	4) 体格
1 位	L. イルチェンコ (ロシア)				
2 位	K. ペイン (イギリス)				
3 位	C. パッテン (イギリス)				
4 位	A. モウラー (ドイツ)				
5 位	A. クーナ (ブラジル)				
6 位	S. オベルソン (スイス)				
7 位	P. オキモト (ブラジル)				
8 位	J. ペカノワ (チコ)				
9 位	A. ピントペレス (ベネズエラ)				
10 位	M. グリマルディ (イタリア)				
11 位	M. リンペルタ (ギリシャ)				
12 位	T. ズパン (スロベニア)				
13 位	Y. リクエナ (スペイン)				
14 位	E. ファンディジク (オランダ)				
15 位	M. ゴーマン (オーストラリア)				
16 位	N. デュイト (南アフリカ)				
17 位	D. イナチオ (ポルトガル)				
18 位	E. ベルグルンド (スウェーデン)				
19 位	Y. ファン (中国)				
20 位	I. マルチネス (メキシコ)				
21 位	A. ミューラー (フランス)				
22 位	C. サットン (アメリカ)				
23 位	N. サモロディナ (ウクライナ)				
24 位	A. ボガリン (アルゼンチン)				
DNF	K. コブリッチ (リ)				

・総括

野球やソフトボールなどがロンドン・オリンピックから外れる一方、北京オリンピックからマラソンスイミングが新たに正式種目に加わった。その理由と意義を改めてここで考えてみたい。

そもそもオリンピックは「平和の祭典」と言われ、「限界に挑戦する高い競技性」だけでなく、「スポーツ競技を通じた高いメッセージ性」もその大きな使命となってきた。これまで幾度となく、紛争国の「オリンピック停戦」が合意に達するなど、その効果と功績は高く評価されてきた。近年では、環境保全や自然との共生など人類全体で取り組むべき社会的なメッセージも発信するようになってきている。マラソンスイミングのオリンピック種目化は競技自体の世界的な普及に加え、競技設備を新たに建造しなくてもよいなどという環境面への負担や影響の少なさが後押ししたという話を聞いた。一連の時流に乗った決定だった。

このような背景を考えたとき、世界有数の水泳大国であり四方を海に囲まれた海洋国である日本が、自然環境を泳ぐマラソンスイミングを他国よりも率先して取り組むことは、スポーツ競技の枠を超えた大きな社会的意義を持つことではないだろうか。今回まとめさせていただいた報告書が、マラソンスイミングのより積極的な取り組みを喚起し、10年後20年後を見据えた21世紀型水泳文化の創造の端緒となることを願い総括といたします。